

平成24年度 授業改善推進 プラン

◆学力調査の結果

A 教科の内容

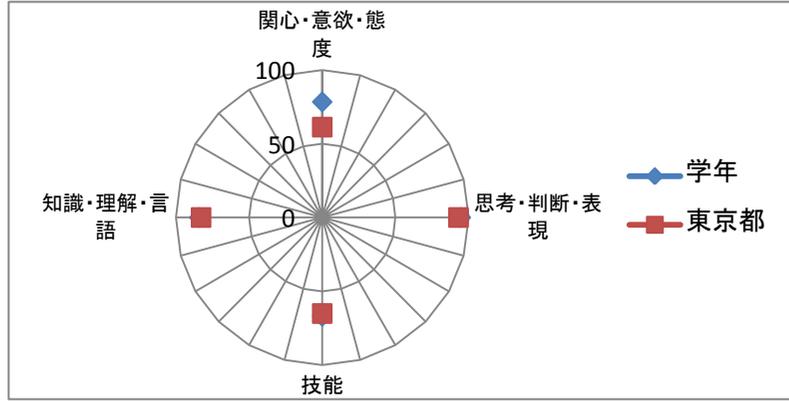
国語	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解・言語
学年	78.4	94.7	67	84.1
東京都	61.3	93.1	65.1	82.8

B 読み解く力に関する内容

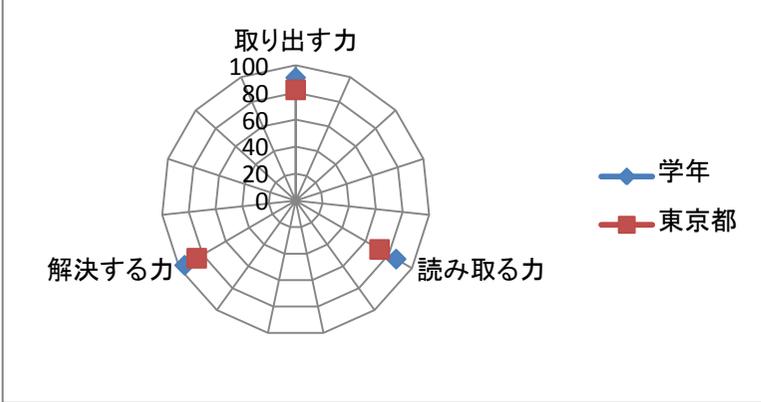
	取り出す力	読み取る力	解決する力
学年	90.9	86.4	95.5
東京都	81.9	72.1	85.1

◆レーダーチャート

教科の内容



読み解く力に関する内容



	教科の成果・課題	授業での取り組み	具体的な内容
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年では、B「解決する力」都平均85.1%、本校学年平均95.5%とほぼ100%に近い結果となった。A「関心・意欲・態度」都平均61.3%、本校78.4%と高い結果が出た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年では、「話すこと・聞くこと」・「読むこと」の領域において、少人数グループでの話し合い・交流に重点を置いて指導している。 ・3学年は、週1漢字テスト、漢字総復習テストほか、文法テストや熟語テストに取り組みさせることで、言語に関する知識と理解が高まったと考えられる。また、定期的に課題作文の書き方について指導をしており、書く力の向上にもつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年では、自分の考えをノートや付箋紙等に書かせてから話し合いをさせている。また、自分の考えをもたせてから全体で交流する時間を設定するようにしている。 ・漢字テスト・文法テストを定期的に取り入れる。 ・第3学年では、200字の課題作文の指導を定期的に行うほか、自分の意見を体験や経験を交えて書く、という練習をさせている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年は、基本的な言語事項が身につけていない生徒が多くおり、基礎の定着に課題が見られる。 ・第2学年では、「読むこと」の領域で、根拠を明確にして読み取ることに課題が見られる。 ・3学年は、「読むこと」「古典」に課題がある。また、応用力は低くないが、基礎の再確認、完璧な定着が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年は、小学校で習った漢字の総復習をはじめ、物語の読み方や段落の役割など、基礎の確認・反復を徹底し、授業の中でも、単元のはじめと終わりには必ず既習事項の確認から始め、基礎の定着を目指す。 ・第2学年では、説明的な文章や評論文の読み取りの際、構成や展開に着目した読みをさせる。 ・3学年は、課題である読解力（現代文・古典）をつけるために、筆者の意見をふまえて自分の考えを持ちたり、根拠を明確にしながら描写の意図を読み取ったりするような、考えさせる授業展開を考える。また、既習事項を振り返り、基礎の完璧な定着を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年では、読むときの根拠を明確にするために、「サイドライン」の活用、学習シートでは根拠をーで明確に示すように指導してる。今後、より効果的な指導法を確立したい。 ・現代文の読解、古典の読解に関して、記述をもとに自分の意見を持たせるとともに、他の人の意見を聞いて自分の意見をさらに深められるようにする。 ・古典は、音読を通して読みに慣れながら、原文と現代語訳を照らし合わせて内容を把握しやすいようにする。

平成24年度 授業改善推進 プラン

◆学力調査の結果

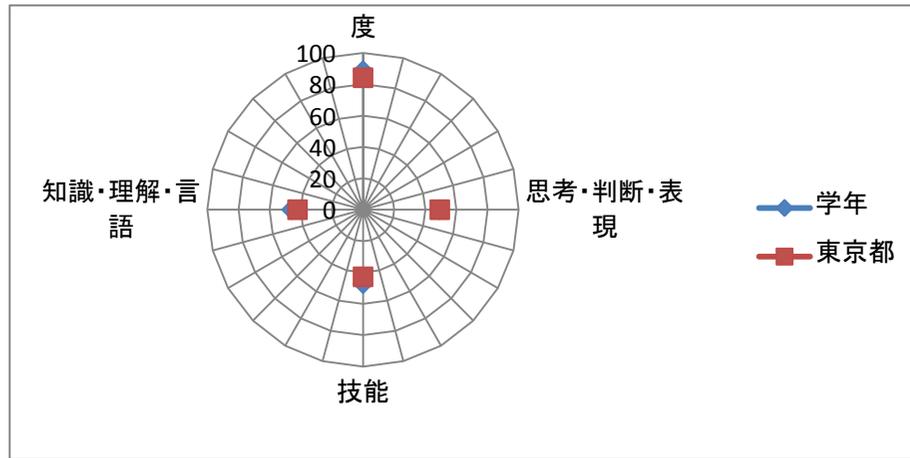
A 教科の内容

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解・言語
学年	88.6	49.2	47.1	45.9
東京都	84.1	49.3	42.8	42.1

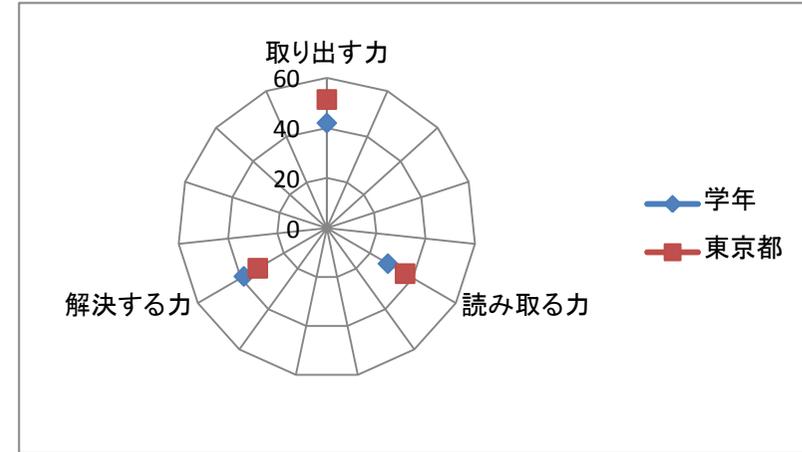
B 読み解く力に関する内容

	取り出す力	読み取る力	解決する力
学年	42	28.4	38.6
東京都	51.4	36.4	32.1

◆レーダーチャート 教科の内容



読み解く力に関する内容



	教科の成果・課題	授業での取り組み	具体的な内容
成果	<ul style="list-style-type: none"> 授業で生徒の興味関心を高めながらすすめていることが、「関心・意欲・態度」で東京都を5%近く上回る成果につながった。 学校休業日にレポートを作成させていることが「技能・書く」力で東京都を5%近く上回る成果につながった。 第1学年では、積極的な発言がみられるなど、社会科への関心の高さを感じている。 第3学年では、学習への取り組みが定着してきた生徒が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1、2学年では、単元終了時に、まとめ学習を行い、自分の考えをまとめてからグループで話し合って意見をまとめ、クラス全体に発表している。読み解く力の向上につながっていると考え。 第3学年は、発問の場面を多く設けて、なるべく多くの生徒に返答させている。思考・判断・表現力の向上につながると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートは、板書を移すだけでは不十分で、話をしっかりと書きとり、あとで自分がノートを見返したときに授業内容を再び理解できるように作ることを指導している。書きとる力は、学年を追うごとにはっきりと向上している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 「読み解く力」の中で、「取り出す力」と「読み取る力」が東京都を下回った。 第1学年では、とくに定期考査前の学習への取り組みや意識が弱く、基礎力不足の生徒が多い。 第3学年では、夏季パワーアップ教室で、既習事項の基本的な部分で積み残しをしている生徒が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1、2学年では、これまで以上に、目ごろの授業での発問や作業を増やすことと、単元の終わりの振り返りまとめ学習を継続し、生徒各自にしっかりと取り組ませることで、意識を高め、基礎力の定着、向上を図る。 第3学年では、総復習のワークを配布し、とくに受験時に得点力を高められるように指導していく。 	

平成24年度 授業改善推進 プラン

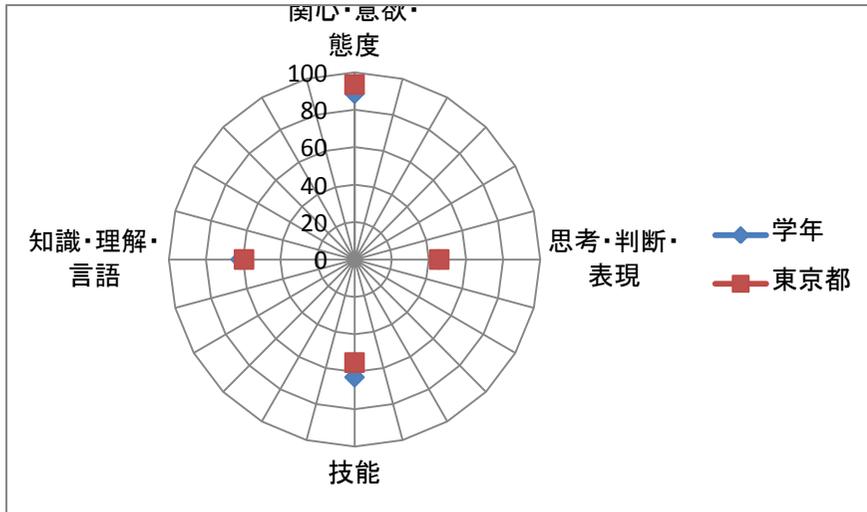
杉並区立和泉中学校 数学科(基礎)

◆ 学力調査の結果

A 教科の内容

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解・言語
学年	88.6	45.5	62.9	61.4
東京都	93.5	45.6	55.1	59.5

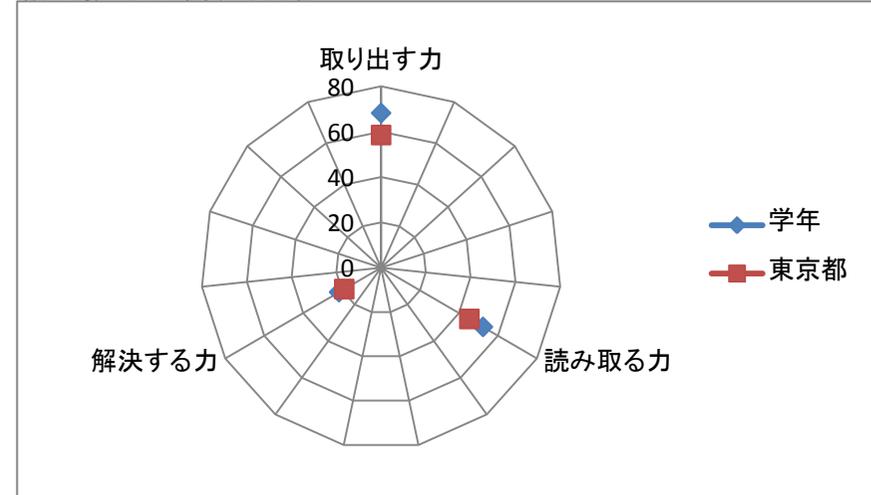
◆ レーダーチャート
教科の内容



B 読み解く力に関する内容

	取り出す力	読み取る力	解決する力
学年	68.2	52.3	21.6
東京都	58.5	45.3	18.9

読み解く力に関する内容



	教科の成果・課題	授業での取り組み	具体的な内容
成果	<ul style="list-style-type: none"> 第2学年における関心・意欲・態度は、東京都の平均値を下回るものの88.6%の高い数値を示した。また、第1, 3学年においても高い関心・意欲をもって授業に臨んでいる。 第3学年における数学的な技能、数量や図形などについての知識・理解は、区の平均値を上回り習得が見られる。 第1, 2学年においても、数量や図形などについての知識・理解は、おおむね習得が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎クラスにおいては、各単元とも教科書の例題を丁寧に説明する。問題演習も教科書のたしかめ問題、基礎問題、章末問題をわかりやすく丁寧に解説する。 第3学年においては、2学期末までに教科書内容の説明を終了し、3学期は入試問題演習に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1, 2学年基礎クラスでは、数量や図形などについての知識・理解の習得のためにゆっくり丁寧に授業を進める。理解を深めるために毎時間全員に発問し発表させる。わかりやすいノートになるよう板書も工夫する。また、算数分野の定着に課題のある生徒もいるため、算数の内容も復習する。 問題演習では、個別指導を行い技能の定着を図る。また、生徒が黒板で演習を行い説明し発表力も身につくように指導する。 3~4名の小グループをつくり問題解決型の授業を行い、数学的な見方や考え方の習得や発表力を身につけさせる。 授業のはじめに本時の目標を明確にし、文章や図・グラフなどから、その内容をわかりやすく丁寧に読み取らせ、考えさせる授業を行う。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 第1, 2学年とも数と式、図形、資料の活用における数学的な見方や考え方に課題がある。また、第2学年では、都の学力調査におけるA層及びB層の生徒は63.7%に達するものの、D層の11.3%の生徒は、各領域における技能の習得と数量関係や資料の活用における数学的な見方や考え方に課題がある。 読み解く力においては、東京都の平均値を上回るものの低い数値である。各学年とも、必要な情報を正確に取り出し、読み取る力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1, 2学年基礎クラスでは、数量や図形などについての知識・理解及び数学的な技能の習得に重点を置いているが、技能の習得に課題がある。 問題解決型の授業を工夫し、数学的な見方や考え方の習得及び発表力を身につけさせる。 	

平成24年度 授業改善推進 プラン

杉並区立和泉中学校 数学科（標準）

◆学力調査の結果

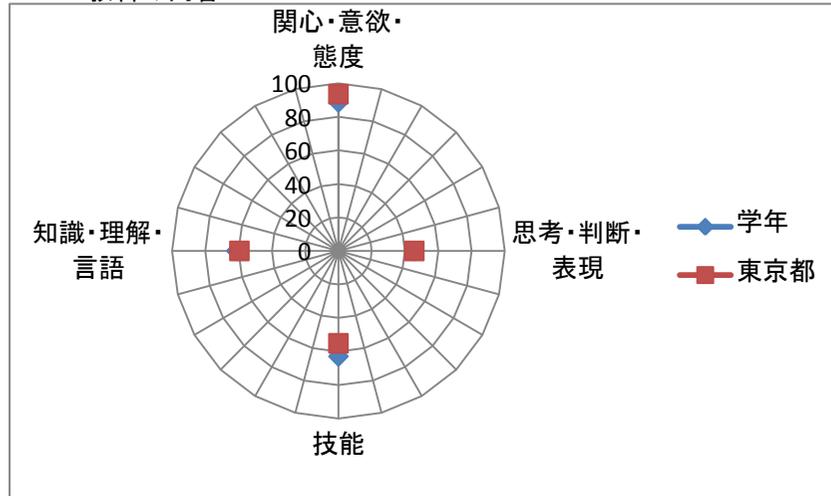
A 教科の内容

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解・言語
学年	88.6	45.5	62.9	61.4
東京都	93.5	45.6	55.1	59.5

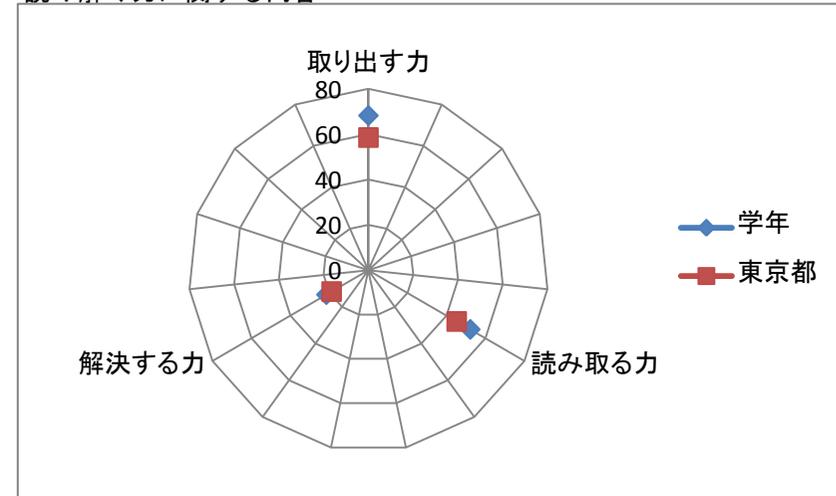
B 読み解く力に関する内容

	取り出す力	読み取る力	解決する力
学年	68.2	52.3	21.6
東京都	58.5	45.3	18.9

◆ レーダーチャート 教科の内容



読み解く力に関する内容



	教科の成果・課題	授業での取り組み	具体的な内容
成果	<ul style="list-style-type: none"> 技能の領域において、授業におけるプリントを用いた反復演習の成果から高い数値が得られた。 東京都の平均を下回るものの、関心・意欲・態度において高い数値が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のレベルに応じたプリントの作成 電子黒板による視覚に訴える授業 1分間の声出し計算練習 	<ul style="list-style-type: none"> 全体として、本時の授業が理解できたか確認するための基礎プリントを取り組ませ、できた生徒には、本時の内容の発展的内容を演習させ、思考力を高める。 空間図形の展開や関数のグラフの動きなど、生徒がつまづきやすい単元は特に電子黒板を使い、動きを考えさせ、図形やグラフの仕組みを理解、表現させていく。 図形の角度計算や方程式を解く際の計算力向上を目指し、毎時各生徒1分間の声出し計算練習を行い、計算力の更なる向上を目指す。 各単元の導入部分、章末部分において既習事項を利用し、様々な図形の性質等の発展内容を自力解決させながら数学的な見方や考え方の向上を図る。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 読み解く力において、東京都の平均を上回る結果が出ているが、未だ低い数値である。特に文章に関し、表現する力はあるものの、文章を読み解く力に課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み解く力、説明する力、表現力の向上のため、自力解決型の学習を取り入れながら、数学的な見方や考え方の向上を図る。 	

平成24年度 授業改善推進 プラン

杉並区立和泉中学校 理科

◆学力調査の結果

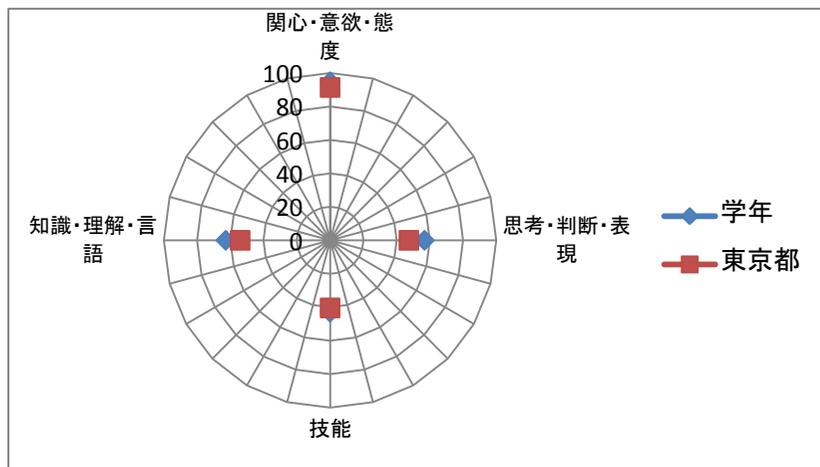
A 教科の内容

理科	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解・言語
学年	94.7	56.8	42.9	62.8
東京都	91.3	47.4	40.4	54.1

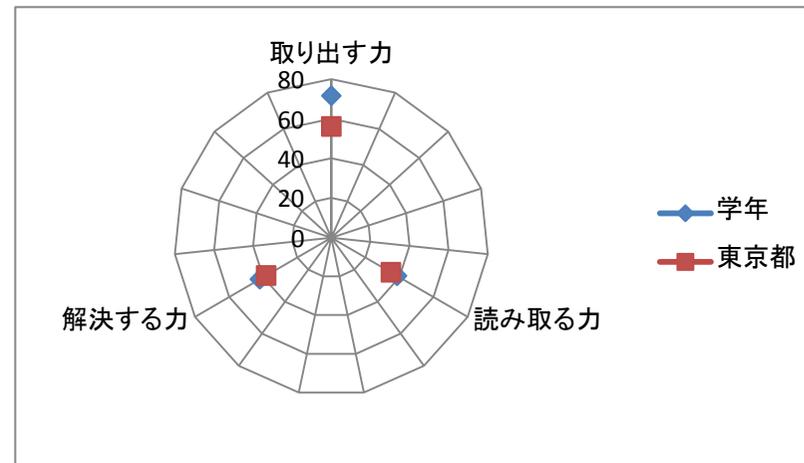
B 読み解く力に関する内容

	取り出す力	読み取る力	解決する力
学年	71.6	38.6	42
東京都	56.1	35	38.3

◆レーダーチャート
教科の内容



読み解く力に関する内容



	教科の成果・課題	授業での取り組み	具体的な内容
成果	1年、2年、3年共に、自然現象に高い関心を持っており、一つの事象に対してたくさんの疑問を持つことができ、意欲的である。また、実験に取り組む姿勢も意欲的であり、積極的に実験をおこなうことができる。	体験的な学習として、それぞれの単元で実験を多く取り入れるようにしている。その中で、化学、物理単元の実験においては、実験の結果から考えるという取り組みをおこなう。また、実験の結果を表現させる機会をつくり、自分の考えを文章で表現させるようにする。	実験の際にプリントを用意し、実験の結果を文章や絵で表現させるようにする。また、感想と考察の違いを説明し、常に考察を書かせるようにすることで、自分の考えを持たせ、表現させる。
課題	1年2年、3年共に、実験の結果から考察することを苦手としている。また、実験の結果を文章にして伝えることも苦手としている。	2、3年生においては、新単元を学習する際に、関連性を持ち、すでに学習している内容の復習をおこなうようにする。	また、実験の安全性を確保しながら、班で協力をして実験を進められるように指導し、実験の技能と、そして結果を導き出すことができるようにする。 全学年で、定期的にノートのチェックをおこない、授業内容の復習、学習にノートを用いることができるように指導していく。

平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査（第2学年）」を受けて

平成24年度 授業改善推進 プラン

杉並区立和泉中学校 音楽科

◆学力調査の結果

教科	A 教科の内容												B 読み解く力に関する内容											
	関心・意欲・態度		思考・判断・表現 話す・聞く		技能 書く		知識・理解 言語		読む				取り出す力		読み取る力		解決する力							
	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都		
国語	78.4%	61.3%	94.7%	93.1%	67.0%	65.1%	84.1%	82.8%	65.2%	64.7%	80.2%	77.2%	90.9%	81.9%	86.4%	72.1%	95.5%	85.1%	90.9%	79.7%				
社会	88.6%	84.1%	49.2%	49.3%	47.1%	42.8%	45.9%	42.1%	/	/	52.0%	48.6%	42.0%	51.4%	28.4%	36.4%	38.6%	32.1%	36.4%	40.0%				
数学	88.6%	93.5%	45.5%	55.1%	62.9%	45.6%	61.4%	59.5%	/	/	62.6%	58.1%	68.2%	58.5%	52.3%	45.3%	21.6%	18.9%	48.6%	42.0%				
理科	94.7%	91.3%	56.8%	47.4%	42.9%	40.4%	62.8%	54.1%	/	/	59.5%	53.1%	71.6%	56.1%	38.6%	35.0%	42.0%	38.3%	50.8%	43.2%				
英語	76.1%	61.4%	48.9%	38.4%	56.1%	49.7%	69.7%	69.5%	/	/	62.8%	57.8%	54.5%	46.8%	55.7%	54.4%	36.4%	32.0%	48.9%	44.4%				
合計												62.6%	58.9%	49.2%	48.6%	41.4%	41.3%							

	教科の成果・課題	主な単元・授業での取り組み	具体的な内容
成果	・音楽表現に対する意欲・関心を高め、表現の技能の成長が大きい。中学2年生としては難易度が高い混声四部合唱に、さらにクラス22人ほどの人数で取り組めたことは、この学年の大きな成果である。	・一人一人の技能が向上するよう授業中に個別指導の時間を取る。 ・一人一人の声質にあったパート分けをし、そのパートにあった発声を指導する。 ・リーダーを中心に練習を行いお互いに感想を言い合う。	・発声の時に一人一人の表情・口の開け方が正しいかチェックする。 ・腹式呼吸が来ているか、力まずに必要なところに力を入れ呼吸できているかをチェックする。
課題	・一クラス22名ほどの人数で更に女子5～6名男子17名のアンバランスで合唱曲に取り組む点である。一人一人の技能の力をつけさせることが課題点である。	・出来れば1時間の授業内に短時間でも全員に指導をしたい。	・発声練習時に母音だけで一曲を歌い、その間に一人一人発声上のアドバイスをして回るなど、取り組んでいきたい。

平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査（第2学年）」を受けて

平成24年度 授業改善推進 プラン

杉並区立和泉中学校 美術科

◆学力調査の結果

教科	A 教科の内容												B 読み解く力に関する内容											
	関心・意欲・態度		思考・判断・表現 話す・聞く		技能 書く		知識・理解 言語		読む				取り出す力		読み取る力		解決する力							
	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都				
国語	78.4%	61.3%	94.7%	93.1%	67.0%	65.1%	84.1%	82.8%	65.2%	64.7%	80.2%	77.2%	90.9%	81.9%	86.4%	72.1%	95.5%	85.1%	90.9%	79.7%				
社会	88.6%	84.1%	49.2%	49.3%	47.1%	42.8%	45.9%	42.1%			52.0%	48.6%	42.0%	51.4%	28.4%	36.4%	38.6%	32.0%	36.4%	40.0%				
数学	88.6%	93.5%	45.5%	55.1%	62.9%	45.6%	61.4%	59.5%			62.6%	58.1%	68.2%	58.5%	52.3%	45.3%	21.0%	18.9%	48.6%	42.0%				
理科	94.7%	91.3%	56.8%	47.4%	42.9%	40.4%	62.8%	54.1%			59.5%	53.1%	71.6%	56.1%	38.6%	35.0%	42.0%	38.3%	50.8%	43.2%				
英語	76.1%	61.4%	48.9%	38.4%	56.1%	49.7%	69.7%	69.5%			62.8%	57.8%	54.5%	46.8%	55.7%	54.0%	36.4%	32.0%	48.9%	44.4%				
	合計												62.6%		58.9%		49.0%		48.6%					

	教科の成果・課題	主な単元・授業での取り組み	具体的な内容
成果	・デッサンやデザインを通して、基礎的な表現力がだいぶ身についてきた。また制作活動の中で、言語活動のひとつとして作品の感想や表現方法などを発表することで、生徒の制作意欲につながった。	・基礎的な表現力を高めるためのデッサンの制作活動 ・言語活動を取り入れる作品の制作活動	・絵画やデザインなどの制作活動の中で、デッサンを増やし、基礎的な表現力や技能を養っていく。 ・作品ごとに制作活動の中で、言語活動として、自分の作品の感想や表現方法などを発表させて、生徒が互いに刺激を受け合いながら、自分自身の制作意欲を高めていく。
課題	・様々な制作活動を通して、継続して基礎的な表現力の向上を図っていく。また様々な制作活動の中で、より多くの生徒に発表させる機会を設け、言語活動の充実を図っていく。	・基礎的な表現力を高めるためのデッサンの制作活動 ・言語活動を取り入れるデザイン作品の制作活動	

平成24年度 授業改善推進 プラン

杉並区立和泉中学校 保健体育科

◆学力調査の結果

教科	A 教科の内容										B 読み解く力に関する内容									
	関心・意欲・態度		思考・判断・表現 話す・聞く		技能 書く		知識・理解 言語		読む		取り出す力		読み取る力		解決する力					
	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都		
国語	78.4%	61.3%	94.7%	93.1%	67.0%	65.1%	84.1%	82.8%	65.2%	64.7%	80.2%	77.2%	90.9%	81.9%	86.4%	72.1%	95.5%	85.1%	90.9%	79.7%
社会	88.6%	84.1%	49.2%	49.3%	47.1%	42.8%	45.9%	42.1%			52.0%	48.6%	42.0%	51.4%	28.4%	36.4%	38.6%	32.1%	36.4%	40.0%
数学	88.6%	93.5%	45.5%	55.1%	62.9%	45.6%	61.4%	59.5%			62.6%	58.1%	68.2%	58.5%	52.3%	45.3%	21.6%	18.9%	48.6%	42.0%
理科	94.7%	91.3%	56.8%	47.4%	42.9%	40.4%	62.8%	54.1%			59.5%	53.1%	71.6%	56.1%	38.6%	35.0%	42.0%	38.3%	50.8%	43.2%
英語	76.1%	61.4%	48.9%	38.4%	56.1%	49.7%	69.7%	69.5%			62.8%	57.8%	54.5%	46.8%	55.7%	54.4%	36.4%	32.0%	48.9%	44.4%
合計											62.6%	58.9%	49.2%	48.6%	41.4%	41.3%				

	教科の成果・課題	主な単元・授業での取り組み (領域・単元・等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・かかわり合い、学び合い 1学期はペア学習、2学期はグループ学習を増やして、かかわり合い、学び合いをしながら学習を進められるようにしている。生徒同士で声をかけ合うことによって、学習を高めていく。また先生に言われてから行うのではなく、自分達で考え実行する自主性も養わせている。 ・学習カードの徹底 1学期から取り組み始め、書く習慣はついてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段階を踏んだ指導 主に器械運動（マット運動・跳び箱運動・平均台） 	<ul style="list-style-type: none"> ・主運動につながる準備運動を丁寧にするによって、心も体も解放し、スイッチオンの状態で主運動に取り組みさせた。初めての運動は、生徒に任せるのではなく、ある程度段階を踏んで自信をもたせながら行い、意図的な場や活動によって技が出来るようにさせることで、発展技に取り組むことが出来た。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に多様な運動経験が少ない。体力テストの結果をみると、第1学年は、男子は19名中、A判定0名、B9名、C6名、D5名、女子4名中、A判定1名、B3名だった。第2学年は男子33名中、A判定4名、B7名、C10名、D7名、判定不可5名、女子11名中A2名、B5名、C3名、判定不可1名だった。 男女共に、「ハンドボール投げ」が都の平均より下回っている。また、男子は「長座体前屈」の結果や授業の様子をみると柔軟性を高めたい。女子は、全体的に運動能力を高める必要はあるが、特に俊敏性、持久力などを高めるとともに、最後まであきらめないというような精神力も養わせたい。 どの領域も基礎が出来る程度である。体育の中で必要な、仲間同士のかかわり合いや学び合いなど通して運動経験を増やしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードの徹底（全領域） ・体力向上の取り組み 大縄・ダブルダッチ ・ミニスポーツ大会等 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1・2学年ともに授業後の振り返りでは、自分の目標を明確にすることや言語活動の一環として、学習カードを書く取り組みを続けていく。3学期には、その授業で習った用語を用いて具体的にどこをどのように工夫したのかを書いたり、本時の目標に沿った感想を書くことが出来るように指導する。 ・大縄・ダブルダッチで持久力、巧技性を養う。さらに、仲間とかかわり合いながら運動することも重視していく。 第2学年は、跳ぶだけでなく発展技にも挑戦して、さらに自分達で工夫した技をできるようにしたい。 ・ミニスポーツ大会では、スポーツに対する興味・関心を高める。

平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査（第2学年）」を受けて

平成24年度 授業改善推進 プラン

杉並区立和泉中学校 技術・家庭科（技術）

◆学力調査の結果

教科	A 教科の内容												B 読み解く力に関する内容											
	関心・意欲・態度		思考・判断・表現 話す・聞く		技能 書く		知識・理解 言語		読む				取り出す力		読み取る力		解決する力							
	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都				
国語	78.4%	61.3%	94.7%	93.1%	67.0%	65.1%	84.1%	82.8%	65.2%	64.7%	80.2%	77.2%	90.9%	81.4%	86.4%	72.1%	95.5%	85.1%	90.9%	79.7%				
社会	88.6%	84.1%	49.2%	49.3%	47.1%	42.8%	45.9%	42.1%			52.0%	48.6%	42.0%	51.4%	28.4%	36.4%	38.6%	32.1%	36.4%	40.0%				
数学	88.6%	93.5%	45.5%	55.1%	62.9%	45.6%	61.4%	59.5%			62.6%	58.1%	68.2%	58.5%	52.3%	45.3%	21.6%	18.9%	48.6%	42.0%				
理科	94.7%	91.3%	56.8%	47.4%	42.9%	40.4%	62.8%	54.1%			59.5%	53.1%	71.6%	56.1%	38.6%	35.1%	42.0%	38.3%	50.8%	43.2%				
英語	76.1%	61.4%	48.9%	38.4%	56.1%	49.7%	69.7%	69.5%			62.8%	57.8%	54.5%	46.8%	55.1%	54.4%	36.4%	32.0%	48.9%	44.4%				
合計												62.6%	58.9%	49.0%	48.6%	41.4%	41.3%							

	教科の成果・課題	主な単元・授業での取り組み	具体的な内容
成果	製作、栽培とも意欲的に取り組んでいる。工具の使用など危険の伴う作業にも集中して取り組めるようになっていく。 プレゼンテーションソフトを活用した発表に工夫がみられるようになっていく。	<ul style="list-style-type: none"> 材料と加工に関する技術 木材による製作 生物育成に関する技術 作物の栽培「スプラウトの栽培」 情報に関する技術 デジタル作品の制作と設計 	説明を聞く時間と作業をする時間のけじめを、繰り返し注意していくことで、集中して取り組めるようにした。 プレゼンテーションでは、発表の場を多く設けることで、どうしたら情報がうまく伝わるかを考えさせ、情報の発信者、受信者双方の体験を多くとるようにした。
課題	製作では、成果を急ぐあまりさ雑になる生徒がいた。ていねいにじっくりと取り組む姿勢を身につけさせることが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> 材料と加工に関する技術 木材による製作 生物育成に関する技術 作物の栽培「スプラウトの栽培」 	作業の時間を段階ごとに区切り、練習の時間等を設け一つ一つじっくりと作業に取り組ませるようにしていく。

平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査（第2学年）」を受けて

平成24年度 授業改善推進 プラン

杉並区立和泉中学校 家庭科

◆学力調査の結果

教科	A 教科の内容										B 読み解く力に関する内容									
	関心・意欲・態度		思考・判断・表現 話す・聞く		技能 書く		知識・理解 言語		読む		取り出す力		読み取る力		解決する力					
	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都		
国語	78.4%	61.3%	94.7%	93.1%	67.0%	65.1%	84.1%	82.8%	65.2%	64.7%	80.2%	77.2%	90.9%	81.1%	86.4%	72.1%	95.5%	85.1%	90.9%	79.7%
社会	88.6%	84.1%	49.2%	49.3%	47.1%	42.8%	45.9%	42.1%			52.0%	48.6%	42.0%	51.4%	28.4%	36.4%	38.6%	32.1%	36.4%	40.0%
数学	88.6%	93.5%	45.5%	55.1%	62.9%	45.6%	61.4%	59.5%			62.6%	58.1%	68.2%	58.5%	52.3%	45.3%	21.6%	18.9%	48.6%	42.0%
理科	94.7%	91.3%	56.8%	47.4%	42.9%	40.4%	62.8%	54.1%			59.5%	53.1%	71.6%	56.1%	38.6%	35.1%	42.0%	38.3%	50.8%	43.2%
英語	76.1%	61.4%	48.9%	38.4%	56.1%	49.7%	69.7%	69.5%			62.8%	57.8%	54.5%	46.8%	55.1%	54.4%	36.4%	32.0%	48.9%	44.4%
合計											62.6%	58.9%	49.0%	48.6%	41.4%	41.3%				

	教科の成果・課題	主な単元・授業での取り組み	具体的な内容
成果	お互いの作品やレポートを発表、鑑賞し、意見を出すことで、自らの体験を深めたり、さらに向上を目指すなど、意欲的に実習に取り組むことができた。	<ul style="list-style-type: none"> 作品と製作レポートの発表とその鑑賞 実習レポート発表とその鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> 不要な服等のリフォームによる環境に配慮した衣生活 <ul style="list-style-type: none"> 栄養の偏りのない食生活、幼児の生活に役立つおやつ それぞれについて自ら調べ製作や実習し、皆で発表する。良い点を見つけ、お互いのよりよい生活を認め合う。
課題	衣分野の製作や調理実習以外で、体験的な授業をすることで、理解の向上を図ったが、さらに定着を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し学習による講義内容の定着 ノート記入状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる単元の授業でも、繰り返しの学習になるように、前回授業での関連する内容を例示できるよう授業内容を配慮する。 ノート記入について、記入状況の確認を机間指導に加え、ノート集めで確認する。

平成24年度 授業改善推進 プラン

杉並区立和泉中学校 英語科

◆学力調査の結果

A 教科の内容

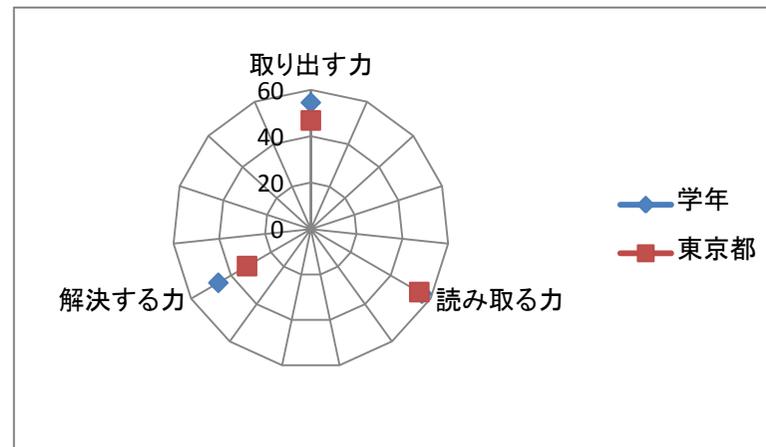
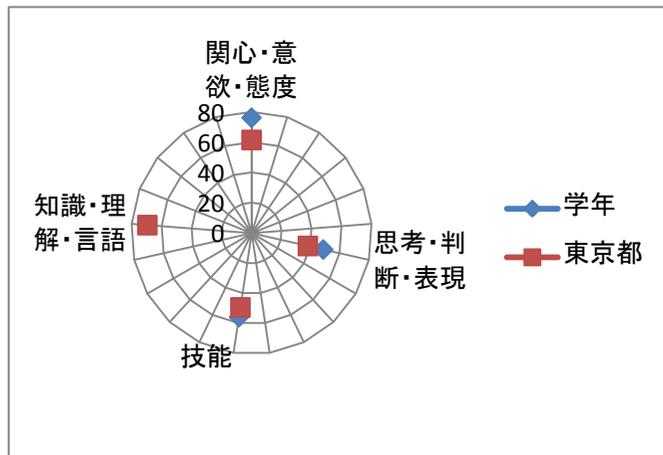
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解・言語
学年	76.1	48.9	56.1	69.7
東京都	61.4	38.4	49.7	69.5

(%)

B 読み解く力に関する内容

	取り出す力	読み取る力	解決する力
学年	54.5	55.7	46.4
東京都	46.8	54.4	32

(%)



	教科の成果・課題	授業での取り組み	具体的な内容
成果	授業中の発言をメモをしていて生徒たちもそのことを知っているため、「興味・関心・意欲」の項目のポイントが高くなったようだ。	関心・意欲を高めるために、予習と復習を日々呼びかけている。単語の意味でも、1つだけではなく、他にもたくさんの意味があるので、英単語にも興味を持たせている。	その日に習った単語や表現を用いて、自分で文章を作らせたり、インタビュー形式の活動を入れてさらに興味・意欲・関心を持たせる。 授業後の休み時間に今日のわからなかったところや質問などを聞きに来るように促したり、理解不十分であろう生徒を呼びとめて確認をしたりする。
課題	長文を読んだりして深く理解する機会がなかったようなので、今後は教科書以外の英文に慣れ親しみ、読み解く力をつけたい。	長文読解の「Let's Read」という読み物が教科書に3つある。それ以外にも長文に慣れ親しみ、5W1Hを意識させながら読む訓練をする。	教科書にそったワークブックの有効活用や、内容理解のワークシートなど、レベル別に取り組める教材を作る。長文に対して興味を持ってもらえるような内容にする。 わかる生徒だけにあてるだけでなく、苦手意識もある生徒にはヒントを与えながら、一緒に読んでいく環境を整える。